

第3学年学習指導案（社会科）

1. 単元名『わたしたちの市の歩み ～市のうつりかわり～』3年1組 計28名 授業者 井口 奈美
授業日時 令和6年11月1日（金） 5校時 3年1組教室

2. 単元の目標

伏見地区や札幌市の様子についての人口分布図などの資料や聞き取り調査を通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解し、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、地図や表、グラフに表現し、主体的に学習問題を追究しようとする。

3. 本単元の評価規準

【知識・技能】

札幌市の交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具について、聞き取り調査したり、地図などの資料で調べたりして情報を集め、読み取り、市の様子や人々の生活の移り変わりの様子について理解している。

【思考・判断・表現】

札幌市の交通や公共交通、土地利用や人口などの時期による違いなどに着目して、問いを見いだし、市の様子や人々の生活の移り変わりの様子について考え、表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。学んだことを基に、市の発展について市民の一人としての願いをもち、協力していこうとしている。

4. 【研究内容1】の具現化に向けて

「分かった」「できた」、「楽しい」を積み上げる教材化

第1単元『市の様子』では、札幌市の「公共交通」や「土地利用」、「公共施設」の広がりなどに着目して各区の特色を捉える学習をしている。

このように積み上げてきた見方・考え方を生かし、本単元では、「土地利用」「公共交通」「公共施設」という視点に加え、新たな「人口」という視点を軸に、札幌市の過去から現在の移り変わりについて捉えていく。単元の入り口では、第1単元を通して積み重ねた事実認識や視点を関連付け、更に、社会認識を深める姿を引き出したい。そのために、「これから札幌市はどうなっていくのか。」と問いかけることにより、札幌市の未来について考え、時間的な見方・考え方を働かせながら単元を追究できる。

また、上記の学習に並行して、札幌市役所に札幌市まちづくりビジョン・アクションプランについてインタビューしたり、今後札幌市がどのような街になってほしいか提案したりする活動を行っていく。そうすることで、これまで働かせてきた「土地利用」や「公共交通」、「公共施設」や「人口」という見方・考え方を基に、「もっとこんなところになってほしい。」と、札幌の未来を一人の市民として思い描く姿を目指す。

5. 「分かった」「できた」、「楽しい」を

積み上げる学習構成

・ 1～2／9

札幌市の移り変わりについて、年代ごとの写真を比較することを通して、それぞれの視点を基に、単元の学習問題をつくり、学習計画を立てる。

・ 3／9

札幌市の昔と今の土地の使われ方について調べる活動を通して、昔と今の違いを比較し、市の移り変わりについて理解する。

・ 4／9

札幌市の昔と今の交通の様子について調べる活動を通して、交通が広がってきたことを理解する。

・ 5／9

札幌市の昔と今の公共施設について調べる活動を通して、市民の願いをもとに公共施設が増えてきたことを理解する。

・ 6～7／9

札幌市の人口について調べる活動を通して、人口増加と土地利用、交通、公共施設の移り変わりを関連付けて捉える。

・ 8／9（本時）

札幌市の今後の人口について調べる活動を通して、人口推移と土地利用、交通、公共施設の移り変わりを関連付けて捉える。

・ 9／9

市の移り変わりについて、各視点を基にまとめる。

6. 本時の目標

札幌市の今後の「人口」について調べる活動を通して、人口の推移と土地利用、交通、公共施設の移り変わりを関連付けて考え、札幌市民の一人として市の未来について思考できる。

7. 本時の学習

おもな学習活動（8／9）

「一目で丸わかり！札幌市年表」を完成させよう。

人口がどんどん減っているよ。

子どもは半分近く減っている。

札幌市の人口の将来見通し（各年10月1日現在）

年	総人口	高齢者人口	年少人口
2011	1,911,000	350,000	1,561,000
2012	1,890,000	350,000	1,540,000
2013	1,869,000	350,000	1,519,000
2014	1,848,000	350,000	1,498,000
2015	1,827,000	350,000	1,477,000
2016	1,806,000	350,000	1,456,000
2017	1,785,000	350,000	1,435,000
2018	1,764,000	350,000	1,414,000
2019	1,743,000	350,000	1,393,000
2020	1,722,000	350,000	1,372,000
2021	1,701,000	350,000	1,351,000
2022	1,680,000	350,000	1,330,000
2023	1,659,000	350,000	1,309,000
2024	1,638,000	350,000	1,288,000
2025	1,617,000	350,000	1,267,000
2026	1,596,000	350,000	1,246,000
2027	1,575,000	350,000	1,225,000
2028	1,554,000	350,000	1,204,000
2029	1,533,000	350,000	1,183,000
2030	1,512,000	350,000	1,162,000

大人だってどんどん減っている。

高齢者がどんどん増えている。

札幌の未来は…

これからの札幌市はどのように変わっていくのだろう。

○札幌市の未来について考える。

人が減っていくと、バスの路線がどんどんなくなっていくよ。

住宅地が減って、土地の使われ方も変わっていく。

このまま人口が減っていくと、札幌がなくなってしまうかも…

札幌市の未来をよりよくしたい！

もっと人を集めるために、イベントを開いたらいいと思う。

札幌市の魅力を色々な人に伝えていきたいな。

外国人は増えているよ。いろいろな人が使える施設が増えればいいな。

住みやすいまちってことは、人が親切だってことも重要。

札幌市が

自分たちが

○札幌市役所に提案したい内容を考える。

いろいろな人が大人や子ども、高齢者に優しいまちに。

世界にアピールできるようなイベントを。他の国も

お年寄りが移動しやすい公共交通を。高齢者が

外国人も困っている人や外国人に声を掛けたい。

札幌市は人口が減っているけれど、国際化が進み、いろいろな人が住みやすいまちになっていく。

○学習を振り返る。

札幌市の未来をすてきなものにしていきたい。

札幌のよさを色々な人に知ってほしい。

8. 本時における【研究内容2】の具現化に向けて

「浸る」「つなげる」

「広げる・深める」ための教師の関わり

「札幌市の将来推計人口」を提示し、札幌市の今後の人口の推移について予想できるようにする。また、「今後札幌市はどうなる。」と問うことで、人口の推移が札幌市の未来にどう影響するのか考えを広げていく。

札幌市の人口の推移によって土地利用や公共交通、公共施設にどのような影響を与えていくのか既習を基に予想する場をつくる。そうすることで、人口と土地利用や公共交通、公共施設との結び付きを捉える。また、訪日外国人や在留外国人の人口推移を提示することで、札幌に訪れたり住んだりする外国人が増えているという事実を認識することができるようにする。

よりよい札幌市について具体的に想起し、札幌アクションプランに提案する場を設定することで、札幌市民として今後のまちづくりについて、自分事として捉えることができるようにする。

9. 評価基準

札幌市の今後の人口の移り変わりについて必要な情報を集め、人口の増加と土地利用や交通、公共施設の変化と関連付けて考えることができている。